第２回磐田市立学校の通学のあり方検討委員会

１　日　時　令和６年９月27日（金）午後６時から７時30分	
２　場　所　磐田市役所西庁舎　３階　301～303会議室	
３　出席者（検討委員）	
加藤祐二（学識経験者）	
吉野博行（磐田市自治会連合会副会長）	
早澤　恵（豊岡北小学校ＰＴＡ会長）	新井宏美（豊田北部小学校ＰＴＡ会長）
黒柳加代子（福田中学校ＰＴＡ会長）	大場篤史（竜洋西小学校ＰＴＡ会長）
増田智哉（城山中学校ＰＴＡ会長）	
亀家達夫（豊岡北小学校長）	松井信治（磐田南小学校長）
鈴木　英（向陽中学校長）	
４　事務局　学校づくり整備課学府一体校グループ	学校教育課指導グループ
５　傍聴者　３人	

議　　事

○今後一体校化が推進される学府の通学について

（委員長）　お忙しいところ、ご出席ありがとうございます。２回目の検討委員会ということですので、前回からさらに話が深まることを期待しておりますので、よろしくお願いいたします。それでは、議事に入ります。事務局のほうから説明をよろしくお願いします。

（事務局）　本会ですけれども磐田市全体の通学の在り方について市内の代表の皆様にお集まり頂いて検討を進めております。本日もそういった視点で検討を進めていきたいと思っております。前回の第１回ですけれども、各地区の通学路の課題や現状についての御意見頂きましてありがとうございました。各地区の課題等については、事務局としても現状の課題として捉えております。そのときに頂いた御意見については、各校にお伝えをさせていただいております。今後も地域・学校・行政が連携しながら、通学路の安全確保に努めていきたいと考えております。各地区での課題や要望については、今までどおり、地域や学校を通じて、今後も検討していくこととして、本日は市全体に関わる課題について協議していきたいと考えております。そのため、本日ですが、事務局のほうから皆様に検討していただきたいことを提案し、焦点化する中で、今後の磐田市全体に関わる通学の在り方について協議頂きたいと思います。お手元のプレゼン資料もしくは次第のほうを見ていただきながら、よろしくお願いいたします。スライドと資料と少しあるものないものがございますけれども、ご容赦ください。

本日の議事ですけれども、今後、一体校化が推進される学府の通学についてとさせていただきました。令和３年にながふじ学府である豊田中学校と豊田北部小学校が一つになる、磐田市では初めての施設一体型小中一貫校、通称、磐田市では一体校と呼んでおりますが、一体校が建設されました。また令和８年には向陽学府の４校が一つになる、小中一貫校、向陽

学府小中一体校が開校を予定しております。学府内の小・中学校が一つになる初めての未来型一体校の開校となります。今後の一体校建設の計画については、各地域の方々と協議を重ねていく中で決定していくことになりますので、次にどこの学府といったところはまだこれからのことにはなりますけれども、小中一貫教育を推進している磐田市、そして、それに伴って、一体校化を推進している磐田市としての方針もありますので、一体校化によって、変化することが一体どういったことかということを見据えながら、子供たちの安全安心な通学の在り方について、協議する必要があると考えこの会を開催させていただいております。

今日、皆様は市内の様々な学府からお見えになっていただいていますけれども、皆様の学府で、今一体校が建設されているのは、二つの学府だけですけれども、もしご自身の学府で一体校が建設されるとなると、どういったことが変化するというふうに想像されますでしょうか。まず一体校化が推進されることによる変化ですけれども、人数は当然ながら増加していきます。このことが通学にどう影響していくかっていうと、やはり今まで、限られた人数での通学ではあったのですけれども、何校かから同じ学校に向かって通学しますので一体校周辺を含めた通学の状況というのは大きく様変わりしていきます。そして二つ目に、通学路です。一体校へ通学するための通学路は、改めて地域保護者の方が検討していくことになります。その通学路の安全性については、前回の協議でも話題となったように、安全性を高めるために修繕をしていくところ、または、見守りや地域の協力によって安全性を確保するところなど、幾つかの対応が必要になるかと思っています。そして１番は通学距離です。通学距離については、一体校化されることによって、短くなる子もいますけれども、ほとんどの子が、通学距離が延びます。そして１番は不均質と書かせていただきましたが、学校の適正規模の中で、ある程度の通学距離の中で通学している子たちがいた学校が、一気に非常に近くから通学する子、非常に遠くから通学する子、学校の中にそういった不均質な状況が生まれます。これは学校運営の中でも、やっぱり大きく関わってくるところですし、それは通学に対しては非常に変化するところだと考えています。そして最後に通学方法です。小学生は徒歩で、中学生は自転車という、同じ学校にまず二つの手段、さらにはスクールバス、そして昨今では、暑さとか、大雨の影響もあって、送迎も一つの通学方法として、各学校で、ほぼ定着しているというふうに聞いております。それが通学として認められているかどうかということではなくて、もうそれが今一般化しているというのが、各学校から聞いているところのやはり状況かなと思っています。こういったことを考えたときに、どの場所に一体校が建設されるかによっても、変わってくることではあるのですけれども、仮に、ながふじ学府や向陽学府と同様に、今ある中学校の場所に一体校が建設されていくと仮定したときに、各学府の人数とか、通学の変化とか課題となること。安全面での心配な個所というのは幾つかありますので、私どものほうで学府ごとに、少しまとめてみましたので簡単にご説明したいと思います。

今から磐田市内の各学府について少し、想定の中で説明をさせていただきます。

まず、とよおか学府です。最初ですので簡単に説明させていただきますと、左側の地図の緑の線が小学校区になります。大きな赤枠の線が中学校区になります。とよおか学府は、豊岡東小学校がありましたけれども、豊岡北小学校と一緒になりましたので１番東側のところ

には小学校は、今は存在しておりませんが、現在は豊岡中学校、豊岡北小学校、豊岡南小学校の３校が、とよおか学府の中に存在しております。右上のところを見ていただくと、仮に、どこかのところに一体校が建設され一つになっていくと、人数が現在では851人の学校になっていくというところ。そしてもし、ながふじや向陽学府と同じように、中学校に建設されることになっていくと、豊岡北小学校からは0.6キロ、豊岡南小学校からは2.1キロの距離です。ただ単純に小学校からの距離ですので、実際には、豊岡北小まで３キロ近く歩いている子もいますのでそこからさらに、豊岡中へとか、豊岡南小に３キロ近く歩いてさらにそこから豊岡中へという形になっていきますので、小学校からの距離が実際の児童生徒の距離と少し比例するわけではありませんけれども、そういった見方をしていただければと思っています。各学府をちょっと夏の間に回りながら、もし、ここに建設されたら、どういったところが課題になるかというところもちょっと私なりの視点で見てまいりました。本当に私の所見で見ただけとか、学校教育課から頂いた通学路の上がっている課題のところから出しただけなので、いやもっとこういう所が他にもあるというのがあるかもしれませんが、少しご紹介をさせていただきます。まず下野部のあたりですけれども、非常に工場からの大型車の通行が多い道路がありました。非常に人家も少なくて、ここを通学している子も現在もいますけれども、そういった、交通量の多いところがあるところが見てとれました。また、同じく下野部ですけれども、こちらは北小学校のほうからも聞いておりますが、大雨のときには冠水をするそうです。冠水してしまうと、ここを通学している子たちが通れずに、車の通行も非常に難しいということも聞いております。あと、栗下というところですけども、今ここ見ていただきますと、非常に狭い歩道になっていまして、実際にこれから多くの子がもし通行するとなると、かなり歩行が難しい、そういった地域もあるかなということは感じました。その割には交通量が多いというところも課題としてはあるのだろうと思っています。あと記憶に新しいところでは、神増のほうでちょうど２年前に土砂崩れがあって、今でも痛々しい傷痕がありますけれども、通学路ではありませんが、とよおか学府の中には、土砂崩れの心配がやはりあるところっていうのは、幾つかあるというところは見て取れたところになります。ちょっとこういった形で少し紹介させていただきます。

次に、ながふじ学府です。ながふじ学府の人数はこのようになりますけれども、今はもう豊田中学校と豊田北部小学校が、施設一体型の小中一貫校になっておりますので、今後、豊田東小学校が豊田中学校、豊田北部小学校のほうに一緒になっていくということが想定されると、このような形になっていくということになります。心配される地域としては、高見丘のあたりです。工場や商業施設が多くて非常に交通量が多いところがあるのかなと思っております。そしてちょうどこの日も、自転車を引いている中学生がおりましたけれども、豊田中学校から、恐らく豊田東小学校の卒業生だと思います。歩道のない坂道をやはり行かざるを得ない。もしこれが小学校もってなると、ここを小学生が通るっていうことも、想像はされるかなっていうことは思いました。もしかすると違う道があったりとか、新しい通学路というのを考えていく必要があるのかもしれませんが、そういったところもあるかなと思っております。

よつば学府です。非常に人数の多い学府になります。こちらについては、少し違う課題な

のですけれども、今、磐田北小学校の子たちが、バス利用をしているということは皆さんご存じの方もいるかもしれません。北見町の子たちが、磐田北小行きの路線バスを利用されています。これはずっと以前からこのような形であったというふうに私も理解していますし、これはスクールバスではなく、路線バスです。これを利用しているというところも、もし今後、学校の場所が変わるということになっていくと、そういった通学のことっていうのは考えることが増えてくるんだろうなということは思っています。

そして、なかいずみ学府です。非常に学校間が近くにあります。市の中心部にありますので、市役所の前の道なんかも、小学生が歩いて行っていますが、グリーンベルトこそありますけれども、国府台付近については、歩道がない通学路も幾つかありますので、交通量の多さというところから考えると、なかなか危険な場所っていうのは、今現在もやはりあるのかもしれません。

そして、みやのもり学府です。みやのもり学府については、南北に長いこともありまして、田原小学校区の玉越のほうのところが、距離がかなりあるだろうと思っていますし、新しい駅の新設がここはありましたので、鎌田のあたりの御厨駅、そしてもともと工場がありますので、このあたりの交通量が多いところっていうのは非常に朝、自転車とか、車の交通量が多い状況が見てとれましたので、こういったところがまた一つ課題になってくるのかもしれません。

続いて井通・青城学府です。豊田南中、青城小、豊田南小です。非常にここも近隣にあるというところではありますけれども、交通量が多い交差点も幾つか抱えております。そういったところを実際に今、通学している子たちもいますけれども、そういった状況があるかと思っております。

そして、みなみが野学府です。こちらについても、学校間の距離としては近いのですけれども、実際に今、磐田南小、長野小、南部中に通っている子で、かなり遠い距離、３キロ以上ある距離を通っている子もいると聞いています。中でも鮫島の海岸のほうから通学している子もおりますので、その子たちの今の通学の状況の中で、やはり、この一直線のところで、なかなか人家がなくって、日陰がないところを通らざるを得ない部分もあるかと思いますし、何よりも、実際に、距離がかなり、磐田南小まであるなということは感じました。あと、国道150号線があります。これ小島の交差点ですけれども、こういったところも、交通量の多さというのは考えなくてはいけないところかもしれません。

そして、はまぼう学府です。二つの小学校と一つの中学校でほかのところに比べると、学校間の距離もなかなかありますし、豊浜小と福田中となると3.3キロあります。その中で、先ほど出てきた150号線、やはり幹線道路として持っている学府の特徴もありますし、豊浜大橋、ここについては実際にかなり長い距離のある橋ですので歩道こそありますけれども、冬場の強風とかですね、そういったところ、例えばここを低学年の子が傘をさしてというところを考えるとどうだろうっていうところはやはり、思うところにもなります。

そして最後ですけども、竜洋学府です。竜洋学府も150号線を抱えている学府になりますので、同様の課題はあるかというふうに思っています。

今、向陽学府を除いて９学府について、本当に私どもが夏に行って、所見の中で各学府回

りながら、私たちの視点で課題となるのではないかというところを伝えさせていただいたところです。もしかすると、委員の皆様の視点からは、いや、その他にもこういったところがということでお気づきの点とか感じられる部分があるのではないかと思います。もしお住まいの学府、またはお住いの学府以外でも、一体校化が推進されていくとこういったことが通学に関して、考えられるのではないかというところがもしあれば、今この場で少し挙げていただければと思っております。１度、委員長にお返しさせていただきます。

（委員長）　今、市内の各学府の課題も含めながら少しご説明をしていただいたわけですが、それぞれの学府の中で、通学に関してこういうことも予想されるとか、こんな課題があるのではないかと思われることを、今もしも皆さんの中からありましたら、お話し頂ければと思います。それぞれの学府のこと。ご自身の学府のこと、それ以外のところでも構いませんので、お願いをいたします。

（委　員）　学校が変わる、一体校になってくると、例えば今通っている小学校までの道のりは、どこが危険とかっていうのは把握できていると思うんですけど、学校の場所が一体校になって変わったときに、もともとの通学路から変わると思うんですが、そうすると、その危険箇所をもう１回、見直す必要が出てくるのかなっていうか、例えば細い路地を通って交通量の多いところに出ていくとか、あとは横断歩道があるないとかっていうのも多分、すごく関わってくるのかなと思うので、その辺の何か、協議というかは必要になってくるのかなっていうのをちょっと聞いていて思いました。

（事務局）　今お話頂いたとおりでして、実は先ほど出てきたながふじ学府についても、豊田中学校のところに豊田北部小学校がというところで、豊田北部小学校区の中での移転でしたけれども、それでも通学路の見直しというのは必要になってきましたし、今度の向陽学府については、四つの学校が一つの場所になるということで、数年かけて新しい通学路、そして新しい通学路になったときの規制であったりとか、警察への規制要望であったりっていうのは、数年前から行っていかなくてはいけなくなりますので、そういったところへ着手していくっていうのは、当然ながら出てくるかと思います。

（委員長）　お手元の令和２年のときのスクールバス運行検討委員会の報告の中の５ページのところで、通学路の点検というところがあります。一体校になった場合には、ちょっとこの保護者が警察、それから自治会なんかも全部入ると思うのですが、点検っていうか確認をしていくということになるかなと思います。そのほか何か、何でも構いませんので、ありましたらお願いいたします。

（委　員）　一体校になると、中学校の場所は、小学校、中学校の場所はどこになるのですか。要するに、北部小の学校は豊田中学校に行きましたよね。向陽は向陽中のところにできますよね。例えば、竜洋学府で、一体校に今度なるとなれば、小中一体校はどこになるんですか。すいません、勉強不足で、それって決まっているのですか。

（事務局）　恐らく今のお話は小学校区というお話かと思います。例えば向陽学府、今度は三つの小学校が、一つの場所になっていきますけれども、今まで、岩田小学校区だったのが今度は、三つが一つの向陽小学校という小学校に変わっていきますので、向陽小学校の校区が広くなるということになります。ですので、そのときの一体校化の仕方にも関わってくるかと思いま

す。

（委　員）　それは、学府によって違うということですか。小学校がすべて一緒になるパターンと、ながふじのように小１中１が一緒になるパターンというふうになるということですか。

（事務局）　そういった協議をまた地域の方と一緒に進めていく必要が今後出てくるだろうと思っています。そこは、本当にこう、地域の方の願いとか思いとか、あと、今後の学校の在り方とか、あと大きく言うと、まちづくりっていうことも関わってくるというふうに思っています。そういった中で、私どもが決定していけるところではありませんので、地域の方々のお考えの中で進めていく形になるだろうと思いますし、必ずしも、先ほど一体校の建設って言いましたけれども、もしかすると、今ある学校を改修して、そこに、一体校化というか、そういった小中一貫校ということも、小学校と中学校いろいろ階段の高さとか基準も変わってくるので、かなり改修に手間はかかるんですけれども、そういった形もあるのかもしれません。

（委　員）　小学校の範囲が広くなるっていうことは当然、１校に向かって歩いていく距離が遠い地域はやっぱ遠くなるわけですよね。プラス、それに向かってのルートが安全かどうかっていうところも大きく変わってくると思うんですよね。それを例えばバスを出すのか、最短距離で歩道をつけて行けるようにするのか。すごく沢山あると思うんですけども、そういったところの話は、今後っていうことですか。

（委員長）　私が話をするのもあれなんですけども、実はこの一体校の問題は約10年近く前からずっと検討がされてまいりました。その中でいろんな、有識者というか、大学の先生なんかも入っていただきましてね、分離型だとか独立型とか、いろんな形の方法があるということで、それぞれ、今事務局がお話ししてくれたように、それぞれの地域の実情に合った形のものを考えていくことがいいんじゃないかっていうことにはなってきていますので、全部が全部一つにまとめてしまうとか、そういうことにはなってはいないかなと思います。ですので、それぞれのパターンによって、今回は今、向陽学府についての話合いを主に具体的にやっていくわけですけども、次のところの学府になったときにはまた具体的に、この通学路は長いねとか、こうしたほうがいいんじゃないかとか、一つ一つやっていくと、先ほど10年近くかけて話をしてきたと言いましたが、まだずっと長い期間がかかるかなということは考えられます。

（委　員）　長くなってしまった距離は短くは出来ないですよね。長い距離っていうのとか危ないっていうのを、現状、ここで話せばいいんですか。それとも、どういった事に対して、我々そういう北部小の経験をお話しすればいいのか。ちょっとそこがまだ自分なんか理解・整理できてないわけですけど。

（委員長）　実は事務局のほうから私のほうにも提案されたんですけども、今はまず、それぞれの学府の中の課題をまず聞かせていただきたいと。前回もそうでしたが、それぞれの学府の中の持っているその通学路とか通学についての課題を聞く時間としてまず、そうですね７時ぐらいまでですかね。そのあと、実は、この会の今日の半分以上は、この後、向陽のことについての説明をもう一度事務局からさせていただくという予定になっております。今、ご自由に、前回お話してくださったように、あれば通学についてこういう課題をやっぱり抱えています

よって言ってくれていいかなと思います。

（委　員）　１番自分の家が遠い地区なんです。今、本当に真っすぐ行けば最短距離で行けるんですけども、横断歩道が、交差点に設置できない。信号機の関係なのか、その交差点のところに用水があるので車をそこまで停められないのかっていうのがあるんです。それを現状遠回りをして、子供たちは通っています。やっぱ子供たちも毎回言うんですよ。真っすぐ行かしてくれと。信号機もある歩道もある。何で真っすぐ行けないのかっていう子供たちの本当の思い、これ真っすぐ行けばもう全然早いし、僕たち、交通ルール守るし、行けるっていうだけど。でも、設置できなかった関係で、すごい遠回りで早くも出ないといけない。１年生なんかも慣れてないから、やっぱ距離がある。そうするとやっぱ送っていきます。集団登校やりません。できませんとかもう本当にいるのは５、６年の高学年しかない。子供も今班長やってますけど、これ集団登校、別に要らなくない。ていうのがやっぱあります。親の思いとしては送っていけば、安全だし早いし。思うんですけど集団登校っていうとこをしているにもかかわらず班長っていう責任を抱えているんですけど、集団登校になってない。だったら自由に行かせてほしいなっていうのは子供たちから出ているのが現状になっています。子供の数も少ないしっていうとこもあるし、今の傾向で暑ければ、雨がたくさん降れば送っていく。集団登校要らなくないっていうのが課題として出てるし、そういったところに悩んでんだなあっていうのが一つあります。やっぱ遠くから、歩いてる距離も長いと、いろいろこう、ハードルがあるっていうところは、北部小の今課題ですかね。

（委　員）　はまぼう学府なんですけども、距離のことのお話をしなければいけないのかもしれないんですけど、それ以前の地域の思いっていうのがすごくありまして、今回、豊浜小学校、豊浜地区の意見書を持ってきました。それくらいやっぱり小規模な学校なので、やっぱり地域の方がすごく協力して地域で見守ってる学校っていうところで、やっぱりそこの特色を乱したくないっていう思いも、やっぱ伝えてきてくれるんですよね。なので、そういうことも含めての一体校を検討、次は、はまぼう学府って言われてるので、その中でちょっといろんな気持ちがこちらに届いてしまうので、そういうことも含めて、道路以前に、人の気持ちがあることも含めて考えていただきたいなっていうのがあります。世の中で500人以上の子供たちが亡くなっているっていう現状も含めて、目を向けなければいけないのは、ここなのか、学校の一体校化なのか。それとも、子供たち自身に目を向けなければいけないのか、そこも含めて、もうちょっと考えていただきたいなっていうのが思いです。

（事務局）　本当にお話し頂いたとおりだと思います。どちらの学校の在り方にせよ、私たちは子供の幸せのためにというところはブレていないと思いますので、今１年半後に迫っている向陽学府の子たちの幸せも私たち願っておりますし、いろんなやり方があるかなって思っております。はまぼう学府についても、地域づくり協議会から一度ご意見頂きましたけれども、一度私たちのほうでお話を伺いました。でもやはり、そこは私たちがこうしていきたいっていうことではやっぱり進まないことなので、一度地域にお返しをさせていただいております。一体校化していくメリットも私分かりますし、デメリットも分かりますし、小規模校の良さも、また逆のデメリットっていうのももちろんあるところです。そういったところを、すごく長い目で見たときに、子供たちの幸せっていうところの在り方っていうのは、一つではな

いと思っていますので、そこについては、地域のコンセンサスを得ていただいて、私たちも一緒に話をしながら進めていけるように、そういった努力は怠らないつもりでいます。ありがとうございます。

（委員長）　本当にそれぞれの地域の思いとかね、そこにいらっしゃる方々のコンセンサスができなければなかなかこういったことは進めていけないものですので、先ほど言ったように、やはり時間はどうしてもかかってしまうというところはあります。ちょっと事務局一生懸命考えてくれていると思いますので、ありがとうございます。その他ございますでしょうか。

（委　員）　私はみなみが野学府の南小学校のほうなんですけれども、今、実際遠くから3.2キロぐらいのところから通ってるもんですから、時間的な問題で大体、もうこの早い子供は７時前に家出ないと、時間までに学校に到着しないというようなとこになってますので、そこから例えば南小からまたさらにもう１キロぐらい離れたとこまで行くとなると、もう15分、20分ぐらい早く出なきゃいけないって、そうなってくると６時40分とか６時半ぐらいに家出る子もいるのかなって、そういう考えでいくと日課の変更とか、いろんなことも考えなくちゃいけない。先ほど、人数、通学路、通学距離、通学方法っていうこともありましたけども、通学時間とかそういう始業時間とか、そういったこともまたいろいろ影響が出てくるのかなってことで、本当に一体校進めるっていうのも、すごくいいことですし、またそういったことも考えなくちゃいけないのかなっていう課題の多さをまた感じるところであります。感想になってしまいましたけれども、そのようなところです。

（委　員）　スクールバスの基準って何かあるんでしたっけ。何キロぐらいがスクールバス運行できるっていうのが、前提として。

（事務局）　お手元の磐田市スクールバス運行検討委員会報告の３ページをご覧頂ければと思います。こちらの検討については、令和２年ですね、こういった一体校が今後推進される中でスクールバスが必要になってくるだろう、そのときの基準というところで、３ページの３検討結果というところの下に丸が二つありますけれども、丸の一つ目、小中学校の通学距離の基準が小学校がおおむね４キロ以内、中学校がおおむね６キロ以内、これがまず、小中学校の適正な距離として、国でもこの距離で進めておりますし、市もこれに倣って、そしてその下の丸ですけれども通学支援というところになります。一体校化により、通学距離の基準が上記の４キロ６キロを上回る場合については、児童生徒の心身の負担とか、保護者負担の軽減を図るために、スクールバスの運行による通学支援を行うというところがまずもっての一つ基準になっております。そして、少し磐田市独自のところがありましてそれが４ページになりますけれども、４ページの（4）配慮が必要な地理的環境というところで、全国的に見ると豪雪地帯であるとか、そういったところもやっぱり配慮を要しているんですけれども、磐田市の場合は、非常に高低差がある地形もありますので、配慮が必要な環境における通学距離の基準が、勾配が６％で１キロ以上、高低差60メートル以上の坂道を通学する場合については、先ほどの通学距離の基準を４キロ以内６キロ以内ではなく、小学校は３キロ以内、中学校は４キロ以内という形で、市独自の基準の中で、スクールバスの運行基準を令和２年に定めたところであります。

（委　員）　４キロというと、子供たちだとどのくらい。もし歩くとなると何分くらいかかるのか。

（事務局）　私が勤務した経験の中では、なかなか４キロ歩いていた小学生いなかったものですから、3.2キロぐらいで45分とか50分かかっていたと思います。今南小でもやっぱりそれぐらいかかっていらっしゃるんじゃないでしょうか。

（委　員）　４キロ以上がスクールバスの対象だとすると、非常に大変だと思いますね。それの前提としては検討する余地があると思いますし、スクールバスで大体こう網羅するのであれば、スクールバスだって逆に言うと集まるところも問題であろうし、そこまで行く道のりも問題だろうし、そういうことが、新しく問題として出てくるわけだね。

（委員長）　今、事務局がお話ししてくれましたように、これ令和２年に、今この名前が変わって在り方委員会と今なっていますが、ここのときには、スクールバス運行検討委員会という名前になっていますが、内容的にはこういう一体校についてどういう課題があるか、特にその通学についての課題を検討したのが令和２年、これを作ってきたわけです。それで、今回、今年はこういうこのものを基準にもとにしながら改善できる点はあるだろうかと、向陽の地区に当てはまるものは、どういうふうな点があって、どこを改善すべきかということを皆さんに検討していただくというのが大きな趣旨になってくると思います。

（委　員）　スクールバスってもう実際に動いているんですか。一体校になっているながふじとかで。

（事務局）　今、一体校になってるながふじ学府については、距離は基準内ですのでスクールバスではなく、徒歩・自転車であります。ただし、豊岡東小学校が豊岡北小学校に統合されたことがありまして、豊岡東の子たちは今スクールバス２台を使って、豊岡北小学校に通学をしています。

（委員長）　よろしいですか。はい。それでは、続いて、説明のほうお願いいたします。また前のほうを御覧ください。

（事務局）　いろいろご意見ありがとうございました。先ほど少し話題にも上がりましたけれども、令和２年に磐田市スクールバス運行検討委員会の中で、小学生・中学生のキロ数とそれに伴うスクールバスの通学支援ということの検討を一度されております。その中で、令和８年４月に開校していく向陽学府一体校ですけれども、やはりいろんなことを考えて検討していく中で、本当にこの基準の中で、もちろんこの基準をもとに考えていくのですが、開校が近づく中で、学校や地域や保護者の方と、非常に多くの意見を交わす機会を頂いた中で、なかなか、今のこの現状の基準では一体校への通学に関して、十分な安全が確保できないという課題があるということも、明確になってきています。そのことをまず皆様に協議頂きたいところで、先ほどと同様に向陽学府の少し通学の課題について説明をしたいと思います。

まず、地理的な部分ですけれども、今ある向陽中学校のところに、令和８年に向笠小、大藤小、岩田小が一緒になって向陽小学校が、そして向陽中学校と、施設一体型の小中一貫校となっていきます。人数は今761ってありますけれども令和８年のときには770人くらいになっていき、今の向陽中学校の約３倍の人数の学校がそこにできていく、建設されていくということになっていきます。その中で、今の令和２年の基準の中でお話をさせていただくと、緑色に塗られているところが小学生のスクールバスの対象の地区になります。西のほうから岩田地区、岩田小学校の子たちは全域スクールバス、そして、大藤地区の北の一部、向笠地区の一部、こちらが令和２年の基準に基づいていくと、小学生のスクールバスの対象の子た

ちはここの緑色のところになります。そして、赤く囲んだところ、こちらが中学生のスクールバスの対象の地区になります。中学生のほうが基準の距離が少し長いものですから、こういった形になっていきます。ただ、こういうふうに見ていただく中で非常に白いところについては、小学生は徒歩で、中学生は自転車または徒歩でというところで、向陽小・中学校への距離がかなりある地域、自治会もあることが分かるかと思います。

幾つか課題を挙げさせていただきますと、向陽学府の中には、岩田地区だけでなくて、県道も含めて非常に長い上り坂・下り坂があります。そういったところでの自転車による事故とか、やはりそういったことは、何件か報告されているところもあります。そして、市民病院も抱えている学府になりますので、朝の交通量も非常に多くなりますし、市民病院前、これ大藤４区になりますけれども、ここも今実際には使っているところになりますが、こちらも、小学生中学生が自転車・徒歩で行っている交通量が多いというところにもなってきます。そして非常にお茶畑なんかもある関係で、緩やかな勾配がかなり長く続きます。一つ心配しているのは人家の少ない道路も多くありますので、防犯の面とか、何か子供たちがあったときの安全面っていうところについての心配も感じているところです。また、歩道があるところでも実際には倒木とか、土砂の災害があったりとか、雨が多いときには、ここなんかについては通行止めになったりもします。子供たちが通れなくなったりもします。そういうときには、お家の方がお迎えにっていうことも実際に発生しているっていうところもあります。なかなか、民地でもありますので行政が手を入れられない部分もあったりとか、そういった難しさも抱えているというふうに感じています。同じように、一歩県道のほうに行きますと、浜松袋井線になりますけれども、非常に交通量が多い長い上りの坂がありますが、歩道がないところを今、中学生が自転車通学をしています。令和８年に小学生がここを使うかっていうと、やはり先ほどの話ではありませんが、通学路として徒歩の通学路としてはふさわしくないだろうということで、小学生については、ここを通学路としては使わないっていう、そういった判断もされたということになっています。

そういった視点に加えて、本当ここ数年ですけれども、非常に暑い日が大変増えています。ここ数日涼しくなりましたが、９月になってもかなりの日が、暑くなっていますので、このように令和２年がどうということではありませんが、この令和４年から今年にかけては非常に暑い日が多くありましたし、実際に熱中症指数ですね、28を超えると熱中症になりやすい、熱中症という症状が出やすいという指数ですけれども、７月から９月の登校時間と下校時間、８時と15時ですけれども、そこを見ていくと、かなりここ数年、そういった日数が増えてきているっていうところがあります。これをなかなかこう日陰がない、人家が少ないところを、まだまだ体力が、未発達な低学年の子たちが歩いていけるのか。先ほどあったように、４キロはとても無理にしても、３キロなら行けるかっていうと、そういったところも、やっぱり考えていかなくてはいけないというふうに感じています。向陽学府の先ほどの基準の中で考えていたときに、なかなか今、子供たちの安全面というのをどうやって確保していくかっていうところが、通学一つにとっても、今後の一体校に通う子供たちの幸せを考えていくと、私たちが今ここで考えるべきところが来ているのかなというふうに感じているところです。

今少し向陽学府のことについて１番喫緊のところになりますので、皆さん感じられるところをご協議頂きながら、先ほどの令和２年のそういった一つの基準も、少し勘案しながら皆さん感じられたところとか、少しご協議頂ければというふうに思っています。

（委員長）　それでは、向陽学府一体校のことにつきまして、感想も含めて何でも構いませんので、ご意見ありましたらお願いをしたいと思います。

（委　員）　豊岡北小ですけど、自分は向陽中学校にも勤めたことがありまして、まさに本当に実感としてすごく高低差があるというのは実感しております。そうれも踏まえて今豊岡北小で感じてるいのは、やっぱりこう、風水害があったりして、大雨の影響で、今年度も、お迎えをお願いしたこともあったんですけども、最初の事務局さんからとよおか学府のこの課題のところ、写真とか見せていただいてあります。そこもそうですけど、実は違う部分も、冠水したりとか、お迎えもなかなか難しいっていうところもあります。そうするとやっぱり、向陽学府で大きくなると、その対応っていうのは、より細かくなっていくんだろうなというふうに感じました。感想ですけども、そういったところがちょっと予想されるんじゃないかなと思います。

（委　員）　はまぼう学府もそうなんですけども、車の送迎がすごく多くて、それが一体校になると、もう恐ろしい交通状態になるんではないかと思ってしまうんですね。なのでそれが遠い、ちょっと離れた勾配とかも続いていて、道路が徒歩で行くにも状態が悪い中で、やっぱりいろんな危険がある。特に送迎に関してすごく心配です。どこの地区も、車での送迎が本当に福田小もすごくて、立地条件が良すぎるので停めれちゃうというのもあるんですけど、徒歩で来る子たちが危ないので、私はいつも雨の日はついて行ってるんですね。学校まで。学校も対処しきれないので、もう保護者で自分たちで何とかしなきゃいけない。また一体校になったら、すぐ本当に近所からもクレームとかあるんですけど、あとはそこの道を仕事で通ってくる方、本当にクレームあるので、そういうことも含めて、ちょっと検討が必要かなとは思います。

（事務局）　本当に送迎については、基本的に各学校で歩いていく自転車でっていうのが、あるべき通学の方法なのかもしれませんけれども、実際には今、送迎がない学校はないというふうに聞いておりますし、多い学校だともう本当に、雨の日は100％に近い送迎があるっていうのも、聞いています。そういった現状もやはり踏まえて、いろんなことを考えていかないといけないだろうと思います。

（委　員）　参観会とかの行事のときの駐車場の確保だったりとか、そういうのもあると思うんですけど、そういうスペースも含めての一体校って考えているんですか。

（事務局）　先ほど言ったように、人数が一気に多くなりますので、そういった場所が必要になってきます。そういった所、例えば近くの公共施設で借りられる学校の場所があるのか、なかなかそうでなくって、違った形で用意しなくてはいけないのかっていうところも、今後、磐田市の方針で進めていくときには、その駐車場のこととか、通学のこととか、通学路のこととか全てを、基本設計の最初から考えていかないと、後づけで考えていくことではないなっていうのは、この半年間の実感ですので、そこは大切にしていかなくては、こういうことを課題に持っていかないといけないなというふうに感じているところです。

（委　員）　まさしく今、一体校に向けて準備をしているところなんですが、今の登校の話の中で、環境的な問題もあるんですけれども、今そこにいろいろ上がってきたものを、道路の中で危険な箇所とかっていうのは、これはもう、一体校だからってことじゃなくて、今のそれぞれの学校の通学路ってことで危険な場所で、普通にあります。今度一体校になって何が困っているかというと、やっぱりその小学生の登校の距離が長くなることと、それと、小学校も中学校も始業時間が同じなので、結局学校周辺が朝すごい混み合うんですよね。自転車で通ってくる中学生と、低学年の子たちが、今までよりも、多い人数が一堂に集まりますので、多分今の歩道ではなかなかスムーズには通れなくなる。しかも雨が降ると送迎の人とかがいっぱいいるので、車も多分大渋滞になるのではないかということで、そういうことをシミュレーションしていくと、登校時間を小学校と中学校ずらせば少し解消ができるのかとか、そういう環境だけじゃなくて、教育活動のほうもちょっといじってみようかなっていうふうなことで今悩んでいます。そうしますと今度、小学生でも中学生もそうですけども、朝の登校時間が早くなったり、帰りが遅くなるってことで、今よりも子供たちの負担が増えてしまうのもどうなんだろうっていうふうな、そういうところもあって、どれを取捨選択していけばいいかってことで今すごく悩んでいるところです。本当に学校づくり整備課のほうでは、いろいろ駐車場のこととか、どんどん新しく出た課題を伝えてですね、いろいろ改善してやっていってもらっているんですけれども、まだまだちょっと課題は多いかなと思っています。

（委　員）　スクールバスなんですけども、今何台を用意する予定で、大きさはどのくらいのものですか。

（事務局）　現在は向陽学府で８台を想定しております。大きさはマイクロバスになりますので28人乗りから32人乗りまでのそれぐらいの大きさになります。

（委　員）　マイクロ８台を動かし、さっき言った向陽中のところに、時間差で入れていくっていうことですか。それとも、そういったロータリーを今後設置してそこでどんどん下ろしながらいくっていう、どのような形にしていく予定ですか。

（事務局）　安全面を考えるとやはりバスロータリーが必要と考えておりますので、スクールバスのロータリーの設置を考えています。

（委　員）　確かに、交通量がかなり多くなるというか、どうしても車、そしてマイクロバス、一般車っていうのもあると思うので、もちろん歩いてくる子たち、自電車の子もいると思うんです。そういったところの安全面、そしてスムーズな環境の設定っていうのを検討していってもらえると、子供たちが安全に通学できるのかなあと思うので、今、多分計画段階だと思うので、その辺の配慮っていうところもぜひ検討していってもらいたいなというところと、あと危険箇所があるっていうところなんですけども、それについての対応、そして動きっていうのは、今現状どうなっていますか。そのままにして進行し、令和８年を迎えるのか、もう改善して、クリアになったっていうふうにして開校するのかっていうところを教えてもらいたいです。

（事務局）　各学校から、通学路の危険箇所なんかについては上がっているところはありまして、例えば、向陽中学校の西側の道路の拡張なんかも、地域の方からの声としては上がるところであります。ただ、なかなか道路の拡張っていうと、数十年単位でかかっていくことになりま

す。私たちが今考えなくてはいけないと思っているのは、なかなか道路の拡張とか、そういった危険箇所が克服できていない中で、子供たちをそこ歩かせるっていうことは恐らく難しい。そこを歩かせることが難しいときに、次に考えていくべき子供たちへの安全面というところの対策が、必要だろうっていうところを考えてるとこです。今のご質問のお答えについては、なかなか今あがっている危険箇所とかそういったところは、全て修繕という形にはなっていかないというところになります。

（委　員）　願うんであれば、子供たちの安全を優先してもらって早く直してもらいたいっていうのと、先ほども言いましたけども、その影響で遠回りをして通学距離が延びるとか、そういったところはなるべく避けてもらえると、やっぱうれしいなと思います。６年のうちに結局ならなかったとか、せっかく通っている６年間我慢してたっていう思いで、通わせるよりもやはりこういうことは動きを早めに、早い段階でその辺の改善された通学路、そして、そこを歩いて通学したんだっていう思いを子供たちに持たせてあげたいっていうのもあるので、なるべく早くそこは行政動いてもらって安全確保してもらいたいなという願いはあります。

（委員長）　事務局、また学校側にも伝えていただいてね。お願いします。その他いかがでしょうか。

（委　員）　この向陽学府は、恐らく、最大限、スクールバスをもっと増やして、駐車場の場所の問題もあるかもしれないけど、子供たちの特に小学校生はもう全員スクールバスと。逆にもう私近いからやめるっていう人はやめてもらって、むしろ何キロ以上がスクールバスじゃないんじゃないかな。むしろもう小学生全員がスクールバスで、本当近くの人だけはやめというふうにしたほうが、他も恐らくそうだと思うんだけど、小学生はいずれにしろ距離が遠くなるんだから、もうバスでやっていけば、通学路の途中で危険な場所とか、関係なくなるんじゃないかと思うんで、あとはバスのピックアップの場所がどういうふうになるかっていうのはあるんだけど、むしろそっちのほうに焦点を当てたほうがいいかなと。それで確かに、アップダウンがあそこは激しいんで、どうしてもう駄目な中学生はいるにしても、小学生を焦点に当てて、もう全員がバスというふうにしたほうがいいんじゃないかな。

（事務局）　そういった検討も今、進めておりまして、先ほどお話ししたように、実際には今の基準でいくと３キロ以上を歩く小学生もかなり増えてきますし、今のままの安全面というところ、先ほどご意見としてもありましたけれども、道路の修復とか改善っていうところを考えたときに、学校周辺の道路の渋滞とか、そういったところを生み出さないためにも、何とかこうスクールバスの運行の仕方については、私たちも工夫をしていく必要があるかなと。そのときに、先ほどの令和２年の一つの基準のところを、私たちはどういうふうに見直していくのかっていうところを、またこの後、事務局としての案をお示ししたいと思いますけれども、そういったところで皆様のご意見も頂ければと思っております。

（委員長）　今の委員のご意見も参考にしながら、実際問題、バス８台でしたかね、一応、できる限りを回す計画ではあるっていうことですね。

（委　員）　素朴な質問していいですか。財源はそこまであるんですか。なぜここまでバスを、それってお金が必要になって来るじゃないですか。その費用はどこで負担して、この一体校もそうなんですけど、解体費用とか建設費用とか含めて、バスを増やすとかってなってくると。今後少子化で、その子たちが大人になってどれだけ市を支えていけるんだろうっていうところ

からちょっと疑問に思っているんですけど、今こんなに使っちゃっていいんですかって思うのも事実です。本当に素朴な質問なんですけど。

（委　員）　下校って、学童行く人がいると思うんですよ。だから朝乗っているのと、下校便って人数違うと思うんです。それで、乗ってないのに、本当にスカスカなのに８台下校も出す。そうするとやっぱもったいないなって思う人もいると思うんですよね。その辺で、朝はいっぱい乗っている、帰りは何人乗っていて８台出すべきなのか。もっと数増やして走らせるのかっていう、その辺のところの調査だったり、運行の仕方、計画っていうのも、やっぱり、ある程度計算しながらやっていって納得してもらえるような方法も一つ大事じゃないかなって思うんですよね。あと朝、スクールバスに乗っている人たち、これちょっとテーマ違うんですけども、最高で何分乗ってるのかっていうところをちょっとお聞きしたいなと思います。

（事務局）　本当おっしゃるとおり、財源というのは限りがありますので、今、８台と言ったのは、決して約束されているものではありません。ただ、これは非常に大きな事業です。四つの学校を一つにしていくっていう、本当に今、全国的にも進んではいながらも、物すごく必要な財源がかかってくることだと思っています。それはきっとこう長い目を見ていく中で、四つの学校を修繕しながら運営していくっていう一つの方法と、ある程度整理をしていくっていうことと、そしてあと子供たちのためにどういう環境をつくっていくのがいいかっていうことと、あと学校を中心としたまちをどうやってつくっていくのかっていう、いろんな柱があるかと思っています。そういった中で考えていかなくてはいけないっていうところが、まずもってあります。では、どうやって財源を生み出すかっていうと、今お話があったように、正直、今、バスの運転士が本当に足らないのが現状です。今は８台っていうところでお話をさせていただいてます。実際に今磐田市内で７台のバスを運行しています。２台を豊岡北小学校のスクールバスとして、残りの５台については、当然持ってるだけでは、もったいないものですから、必要に応じて校外学習とか社会科見学とか部活なんかに使うように、極力、そういった形で活用をしています。ただ、そこには当然、業務委託していますので、運転士の方の人工も発生しますので、必要がないときにはもう一切バスは使わない、その分で人工の部分を下げていく。先ほどおっしゃったように、行きと帰りのバスの運行の仕方は変わります。放課後児童クラブの方向ももちろんありますので、バスの運行の仕方も変わりますし、便数も変わると思ってます。小学校の低学年の子、高学年の子、そして中学生っていう形に分かれていったときの運行の仕方もありますので、そこについては、本当になかなか素人感覚で私が作っていくだけではやはり、安全確保できませんので、専門の方にも調査は行っていただいて、交通量調査も含めながら、バスルートと運行の仕方については、効率的で効果的な方法を考えていこうというふうに考えています。

（委員長）　私が勝手なことをしゃべるかもしれませんが、私の知ってる限りでは、ちょっと資料としては古いんですけども、小学生が１年間過ごすと。行政が、必要とするお金１人当たりで80数万円くらいかかります。もっと多くなっているかもしれません。中学生で90何万円かかっています。それで、その費用の中には、例えば給食で給食センターがいろんなところにあって、配送するだとか、あと当然人件費もあります。先生方もそうだし、あと事務の方とか用務員の方もいらっしゃる。そういったお金だとか、あと校舎の修繕、それから、敷地を場合

によって借用しているところもありますから、そういった費用、だから非常に現状の中でも、かかってる額というのはすごい額かかっているのは確かなんです。今のことと、例えばバスを運行して財源がどうだってなってくると、どちらかというのは私もちょっと分かりませんが、学校数が多ければ多いほど、正直言うと、費用はかさみます。小さな学校を抱えているところほど大変な、費用がかさんでしまうのは確かです。このあたりですと、森町なんかもですね、ちょっと減りましたが、２万人ぐらいの町なんですけども、小中で８校ぐらいで、それを今合併して、例えば泉陽中という中学校がなくなりました。だんだん学校を少数にしているところです。一生懸命費用を捻出して森町はやってきたんですけども、非常に苦しいところがあったというところがあります。ですから、財源面で見るとどうなのかなあというのは思うとこですね。

（委　員）　解体費用とか含めても、一体校、バス代とか入れても今後長い目で見たらそっちのほうがランニングコストは低くなるということですか。

（委員長）　統計的に今計算はできませんが。

（委　員）　ちょっと通学の話とはずれるかもしれないが、一体校にして、もともとあった小学校の活用方法とかっていうのは考えているんですか。例えば民間に委託してとかっていうことも含めて考えはあるんですか。

（事務局）　令和７年度末に３校が幕を１回下ろしますけれども、１年間は学校教育施設としてそのまま残しておいて、私たちのほうで管理をしていきます。その１年間の中でそこの跡地利用については、やはり学校っていうのは地域の一部ですので、地域の方と協議しながら、どういった活用をしていくかっていうところを今後進めていきたいと思っていますし、それが令和９年の利用になっていくのか、もう少し先になるのかっていうところはあるかもしれません。ただ教育施設って結構法的な規制が幾つかありまして、よく道の駅にしたとかという都道府県もあるんですけれども、そういったところができる部分とできないところがやはりあるものですから、なかなかそういった一概にいかないところもあるのかなと思っております。

（委　員）　バスが増えて、子供たちの利便性がよくなることもありますが、それに伴って、やはり些細な細かな繊細な配慮も必要かなというふうになります。利用者側もちゃんと責任を持っていかないと、例えば、来るはずの子が来ない。行っていいのか、休むのかっていったものでどうしようか。帰りのことも今出ましたけども、豊岡北小では、日によって、一斉に下校するパターンもあれば、前半と後半と分かれて低学年と高学年というふうに２便あったりといったようなものもあったりします。そのときに、例えば、校外学習へ行っていて帰りの時間に間に合うかどうかって言ったような、ちょっと繊細な配慮も多ければ多いほど、必要になってくるかなあっていうところがありますので、伝えていきたいと思います。それと、利用者側も責任を持って休むとか、連絡っていったようなところもしっかりやっておかないと、特に８台っていうとその分だけあるし、最初に申し上げた水害とか風水害のときには、事細かく連絡っていったものが必要になってくるので、そういった数が多くなればなるほど、そういった部分も必要になってくるということをご承知していただければと思います。

（委　員）　バスの介助員って入るんですか。運転士が子供たち見て勝手に行くのか、バス＋介助員が

いての通学になるのか。どういった形になるのか。運転士の方は本当に乗せて運転するだけなのか。

（事務局）　基本的には運転士の方１人になります。実際に運行している豊岡北小学校なんかだと、結構そうでない部分もあるとは聞きますけれども、実際に委託しているのは、乗降場所から学校まで学校から乗降場所までっていうことですので、運転のみということになります。

（委員長）　校舎の活用について、豊岡東小の校舎なんか今使ってますよね。豊田北部小は特別支援学校が入るっていうね。何かいろいろと利用する形にはなってるということです。

（事務局）　いろいろご意見ありがとうございました。今、幾つかのご意見頂いて、とにかく、まずは令和８年の向陽小・中学校を、何よりもいい学校にしなくちゃいけないと思っています。そこの１番の根幹になるのは、保護者、児童生徒の心理的・身体的・精神的な安全面というところの確保は、絶対だということを思っています。その中で、なかなか先ほどお示ししたように、一律の基準の中で進めていくことによって、子供たちの苦しさを生み出していてはというところがありまして、一つ案として、事務局案を示したいと思います。令和２年に磐田市のスクールバスの運行検討委員会の報告を受けております。ここを、どうこうしていこうということは特には思っておりません。ただし、これは一つの指針としながらも、やはり今回、こういった一体校の開校建設に向けて携わっていく中で、やはりその一体校が建設される学府の通学については、建設される場所とか、その学府の地理的な特徴を踏まえて十分に協議・検討をして、本当にそこに必要に応じた特別な配慮を適用していかなくては、子供たちの安全面は確保できないだろうというふうに思っています。特別な配慮って一体何だろうかっていうところなんですけれども、それがやはり、一体校建設に向けた重要課題だなっていうことを感じております。いろいろな検討委員会がありますが、通学のことについては、本当に初期段階から熟議して決定していくっていう必要があるかと思っておりますし、先ほど、副委員長様からもお話し頂きましたが、一律の距離数でとこういうところではなくて、発達段階に応じた小学生への配慮とか、そういったことも、今後すべき特別な配慮ということを考えておりますので、こういった今頂いたところを、私たち事務局としても、腹案として持っているというところをまずお伝えさせていただきたいと思いますし、今日いろいろ、頂いたご意見を、まず事務局のほうで今回の通学の在り方検討委員会の報告案としてまとめさせていただこうと思います。こういった内容についてご承認頂ければ、そのことを委員会の報告として、教育長のほうに委員長のほうから伝えていただき、そして、適用していけるような形を進めていきたいと思っております。最後にこういった案を少しお示しさせていただきました。もし何かご意見あればお願いできればと思います。

（委員長）　このような案と、それから次回の第３回目のときに事務局がまとめたものを、もう一度提案してくださるということになると思うんですけども、何かご意見ありましたらお願いします。よろしいでしょうか。（特に意見なし）

次回はそのように、もう一度提案を事務局からしていただくということでよろしくお願いいたします。

（事務局）　それでは、長時間にわたりありがとうございました。

今日いろいろお話をさせていただいて本当にありがとうございました。繰り返しになりま

すけれども、とにかく目の前に迫っている向陽小中学校の子供たちのために全力を尽くしていきたいというふうに思っています。その一つが今日の通学のことだったのですけれども、皆様から一体校をどういう形で進めていくのかとか、一体校とは一体なぜなのかっていう、そういったところのご理解とかご意見を頂いたかと思います。なかなか学校関係者の中でも、実際のところ、こういった意見については進んでいないというのが私の肌感覚です。いろんな視点からやはり考えていかないといけないことだろうと思っていますし、本当に究極なまちづくりの部分に私は関わってきているということは感じていますので、そういった今日の貴重なご意見も、また違った会議の中で生かしていけることだというふうに感じました。大変貴重なご意見ありがとうございました。

　では、以上で第２回磐田市立学校の通学の在り方検討委員会を終了いたします。本日はお忙しい中ありがとうございました。